



EAST POINT JAZZ ORCHESTRA 30th ANNIVERSARY CONCERT

2011.8.28 [SUN]

開場/PM6:00 開演/PM6:30

根室市総合文化会館 大ホール

EAST POINT JAZZ ORCHESTRA
EPJO
30

PROGRAM

1st Stage

ヒッキー・ブル

作曲: クインシー ジョーンズ・ビル コスピー 編曲: ゴードン グッドウィン

枯葉

作曲: ジョセフ コスマ 編曲: ビーター プレア

黒いオルフェ

作曲: L ボンファ 編曲: A ミウラ

各セクションをフィーチャーして

トロンボーン・セクション

ボーン・ヘッド

作曲: レニー ニイハウス

トランペット・セクション

プラス・マシーン

作曲: マーク テイラー

サクソフーン・セクション

トール・コットン

作曲: サミー ネスティコ

ラブ・イズ・ヒア・ステイ

作曲: ジョージ ガーシュウィン 編曲: サミー ネスティコ

A列車で行こう

作曲: ビリー ストレイホーン 編曲: 前田 憲男

2nd Stage

流氷

作曲: 日野 元彦 編曲: 飛澤 宏元

フロム・イースト

作曲: 飛澤 宏元

リジェンド

作曲: ベニー・カーター

ラバー・カンバック・トゥ・ミー

作曲: シグモンド ロンバーグ 編曲: 内堀 勝

テネシー・ワルツ

作曲: ビー・ウイー キング

フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン

作曲: パート ハワード

イツ・オー・ソー・ナイス

作曲: サミー ネスティコ

マンボ・メドレー

編曲: ケン モリムラ

GUEST PROFILE

トランペット

荒木 敏男 元フリーストランペット奏者

根室市出身 根室高校時代より日大芸術学部へ進みトランペットを専攻、在学中よりプロ活動を続け現在に至る。スタジオミュージシャンの中でも、ファーストコールのプレイヤーとして数多くのレコーディングに参加。

SMAPやサザンオールスターズとも共演しツアーメンバーとして活躍。

EPJOとは何度も共演、今回EPJO30周年記念の応援のために、はるばる埼玉県より参加。

作編曲

飛澤 宏元 作編曲家

根室市出身 根室高校時代はトロンボーン、モダンジャズ研究会にも所属、卒業後ヤマハ音楽院に入学、その後トロンボーン奏者として森寿男とブルーゴーツに入団、退団後作編曲家として活動、歌謡曲・ポップス・フォーク・アニメソング等幅広いジャンルで活躍。特に松山千春の編曲を数多く手がける。

EPJO代表の丸山と同期で、EPJOにも多くの作品を提供。クレイン・ダンス、グレート・サークル、ブルース・フォー・イースト

編曲では流氷、ニムオロ・ネイナ、今回30周年を記念しフロム・イーストを作曲 本日が初演となる。

ピアノ・キーボード

市川 芳弘 ピアノ・キーボード奏者

根室市出身 根室高校時代よりモダンジャズ研究会でピアノをプレイ。卒業後米園留学を経てプロとして札幌市を中心に活動。オーソドックスな4ビートからラテンまで、幅広いジャンルをカバー。

現在は自己のサルサバンドを率いて活躍中。

30周年を迎えて

イースト・ポイント・ジャズ・オーケストラ 代表 丸山 一之

本日はお忙しい中、たくさんの皆様が、30周年記念コンサートに駆けつけてくれまして本当にありがとうございます。

今から30年前の1981年11月、「ジャズの街」ねむろに演奏する団体があっても良いのではと、有志で立ち上げた「イースト・ポイント・ジャズ・オーケストラ」(E・P・J・O)ですが、まさかこんなに長く続くとは思いませんでした。

発足当時は、まだまだ楽器自体を演奏する社会人は少なく、吹奏楽をやっていた高校生にお願いして、第1回目の定期演奏会に参加していただきました。

当時の高校生もいまや50歳を間近に迎えることとなりますが、その時参加した高校生が社会人になり、現在メンバーになっていることを思うとさすがに歴史を感じます。

30年の間にはメンバーの転勤などにより、何回か解散の危機や活動中断の時期があるなど、困難なことがありましたが、そのつど家族や友人、そして地域のみなさんの応援に励まされここまで続けてくることができました。

そして、これらの経験が、バンドの音色にも深みを増してきたと思っております。

私たちE・P・J・Oはバンド活動のモットーとして「地域に根差したバンド」を掲げてまいりました。

演奏曲目も他のバンドとは違って、根室にちなんだ「ニムオロ・ネイナ」や「流氷」といったオリジナルソングや、今日も応援に駆けつけてくれた、根室出身の編曲家飛澤宏元さんの「フロム・イースト」などのオリジナル曲をはじめ、他のバンドにはない曲を多く持っております。

また、日頃の活動では「かに祭り」「サンマ祭り」、明治公園での「ハッピー・クリスマス」などの地元密着型のイベントなどに多く参加しております。

このように、「地元根差したバンド」として活動しており、今年11月には念願でありました姉妹都市であります富山県黒部市への演奏旅行を計画しております。

少しでも、根室市民のメッセンジャーとして姉妹都市の絆を強固なものにすることに、お役に立てればと思っております。

私どもE・P・J・Oは、今後も40周年・50周年と根室の地でビッグバンドの火を燃やし続けていきたいと考えております。今後もより一層のご支援をお願いいたします。



EAST POINT JAZZ ORCHESTRA MEMBER

Reeds

Alto saxophone	野田 敏	Satoshi Noda	根室市教育委員会
Alto saxophone	南雲沙也加	Sayaka Nagumo	根室隣病院
Tenor saxophone	丸山一之	Kazuyuki Maruyama	市立根室病院
Tenor saxophone	南雲大観	Taikan Nagumo	信濃連マリンバンク
Britone saxophone	石川尚人	Naoto Ishikawa	メーコー商事

Trombone

Trombone	本田 俊治	Toshiharu Honda	オフィスMics
Trombone	村島 智久	Tomohisa Murashima	北海シェル石油
Trombone	綾野 和久	Kazuhiisa Ayano	つくしアフタースクール
Bass Trombone	池本 昇	Noboru Ikemoto	シバノデンキ

Trumpet

Trumpet	広瀬 清	Kiyoshi Hirose	JR北海道知床斜里駅
Trumpet	本間 静晴	Shizuharu Honma	中標津郵便局
Trumpet	富樫 悠子	Yuko Togashi	主婦(現在黒部市在住)
Trumpet	宮田 真司	Shinji Miyata	根室隣病院
Trumpet	堀井 麻耶子	Mayako Horii	羅臼中学校

Vocal

	富田 明美	Akemi Tomita	花咲小学校
--	-------	--------------	-------

Rhythm & Staff

Drums & Percussion	根塚 一哉	Kazuya Nezuaka	マルタツ
Drums & Percussion	井平 雄司	Yuji Ihira	根室市役所
Bass	三栖 隆史	Takahumi Misu	懐吉岡組
Guiter	藤本 祐	Yuji Fujimoto	浜中動物王国
Piano & Keybord	奥田 友紀	Yuki Okuda	ピアノ教室主宰
Manager	鹿谷 智絵	Tomoe Shikaya	市立根室病院

EPJO Junior

Trumpet	松田 悠平	Yuhei Matuda	根室高校
Trombone	池本 優真	Yuma Ikemoto	根室高校

Concert Staff

Concert Mc: Youichi Takahashi(N.H.J.C)	Poster And Ticket Design: Satoshi Noda
Video: Nemuro Eight Planning	Program Editor: Satoshi Noda
Lighting: Yoshikazu Aida	Band Management: Tomoe Shikaya
Hiroaki Takeda	
Sound System: Yasushi Tagusari	
Naoki Machiya	

Special Thanks to Toshio Araki Hiromoto Tobisawa Yoshihiro Itikawa, Nemuro Eight Planning, And to all of our Wonderful Fans!!

記念すべき1stコンサート

30年前の1981年の11月に産声を上げたE・P・J・O、初のコンサートは翌年の1月に今の図書館である旧公民館で行いました。そこで、一回目のプログラムとコンサート終了後の写真を。

EPJO 1st CONCERT 1982.1.17 (SUN) 根室市公民館大ホール

第1部 グレン・ミラー特集

ムーン・ライト・セレナーデ
チャタヌーガ・チュー・チュー
真珠の首飾り
イン・ザ・ムード
茶色の小瓶
セント・ルイス・ブルース・マーチ
ボルガの舟歌
ペンシルバニア 6-5000
アメリカン・パトロール

第2部

A列車で行こう
ブラジリアン・ファンタジー
パ・ヤ・ソ
ムーン・リバー
イン・ア・センチメンタル・ムード
イツツ・オー・ソー・ナイス
ブルー・レディに赤いバラ
ファン・タイム
ジャンピン・アット・ザ・ウッドサイド

当時は、まだ譜面も少なくバンドも明らかに力不足、グレン・ミラーもオリジナルの譜面は演奏出来ませんでした。しかし、グレン・ミラーナンバーだけで9曲並べているのは、意欲を感じさせます。

また、2部はスタンダードが何曲かと、当時比較的手しやすかった「ミュージックエイト」が出版していた曲を中心にしています。

中でも2部3曲目「パ・ヤ・ソ」はニューハードのGt山木孝三郎の斬新な作品でグレードも高く、大変苦労した曲です。練習中、メンバーから思わず「ヤ・バ・ソ」とジョークが出たことを思い出します。

また、今夜演奏する「A列車で行こう」も30年の間に5種類のアレンジのA列車を演奏してきました。

そして、我々ビッグバンドプレーヤーが敬愛するカウント・ベイシー楽団のナンバーからは、「イツツ・オー・ソー・ナイス」を取り上げていますが、何度やっても楽しく難しく、そして演奏する度に発見のある曲ということで、原点に帰る意味からも、今回も取り上げてみました。

果たして、30年前に比べどの位成長したのか興味のあるところです。



EPJO東奔西走

地域に根差した活動をモットーとしている我がE・P・J・Oですが、管内・道内そして海外へも出かけて演奏活動を行っています。

しかし、意外にも本州での演奏経験がありませんでしたが、今年30周年記念の行事として、念願であった姉妹都市である富山県黒部市への公演が実現することになりました。仕事をもちながらの演奏旅行は大変ですが、是非成功させ交流の絆を深めたいと思っています。さて、そんなE・P・J・Oの30年間の東奔西走の様子をまとめてみました。

- 昭和58年3月 釧路市 初の遠征、釧路市で行われたアマチュアバンド連盟のコンサートに釧路のビッグバンドニューポートJOから誘われ参加。
- 昭和63年7月 羅臼町 羅臼神社の祭りに招かれ演奏。「演歌やれ！」との野次にもめげず演奏。
- 昭和63年8月 帯広市 帯広東アジア音楽祭に参加、ジャズだけではなく、ロックやブルースのバンドとも交流
- 平成元年11月 阿寒町(現釧路市) アイヌチセでの単独コンサートを開催。温泉地ということで、ホテルや旅館の従業員に配慮し、なんと開演が9時半、打ち上げスタートは深夜零時、寝たのは朝方という凄いスケジュールでした。
- 平成4年11月 標津町 標津のカムイ・チエップJOと対バン共演 大いに盛り上がる。
- 平成11年7月 女満別町 女満別ビッグデー出演 釧路・網走のビッグバンドと共演
- 平成11年10月 米国アラスカ州 姉妹都市シトカ市を親善訪問 初の海外遠征、色々な意味でエポックになったピータでした。
- 平成13年9月 別海町 「柏の実学園」を訪問、屋外でのアットホームなミニ・コンサート
- 平成16年5月 色丹島に向かうつもりが、悪天候のため1時間で舞い戻る。
- 平成17年5月 色丹島 訪問実現。島民から大歓迎を受ける。
- 平成17年9月 国後島 この年はピザなし付いていました。
- 平成17年11月 標津町 町の文化祭に招かれ演奏、聴衆の反応も良く、メンバーも張り切りました。
- 平成18年10月 浜中町 霧多布湿原センターでライブ
- 平成19年5月 札幌市 Dr谷橋君の結婚式に全員で参加、二次会では札幌のミュージシャンとセッションも
- 平成19年10月 ロシアサハリン州 サハリン合奏団から招待を受け訪問。これで米露の二大国を制覇。
- 平成20年10月 標津町 川北中学校の学校祭に招かれ演奏
- 平成23年11月 富山県黒部市 30周年記念として訪問予定

EPJOアラカルト

たかが30年、されど30年。これだけの期間演奏活動を行っている、色々な方と共演したり、変わった場所で演奏することも、さらにマスコミへの出演等もあって思い出に残っていますが、そんな部分に注目してみました。

まずは共演者から。

【ジャズ】向井滋春 (Tb) 古谷充 (As/Vo) 井上淑彦 (Ts)

【演歌・歌謡曲】仁科ともみ 大津美子

【フォーク・ロック】福永恵介 CHIZUKA 加藤登紀子 告井延隆・細井豊 (センチメンタルシティロマンス)

【根室出身ミュージシャン】荒木敏男 (Tp) 林研一郎 (Tp) 飛澤元 (Arr) 森崎ペラ (Vo) 飛澤直司 (As) 市川芳弘 (Pf/Key)

【その他】サハリン合奏団

※また、我々同様音楽を愛して止まない多くのアマチュアミュージシャンと共演させていただいていますが、今回はプロの方のみの紹介としました。

続いて、こんな場所でも演奏？をという例をご紹介します。

納沙布望望苑店内～「流水を聞く会」に招かれ演奏、打ち上げはなんと屋外でした。

納沙布観光物産センター～2000年ミレニアムイベントで演奏。

根室漁協上屋～2001年の世紀越えイベントで演奏。

根室港特設会場～カニ祭りやサンマ祭りの会場。演奏していると美味しそうな匂いが漂ってきます。

ピエント・エルバス～ミニライブや番組の収録等に加え、打ち上げや忘年会、様々な場面で御世話になっています。

ル・モンド～お店にGピアノがあったので、昔はよくライブをやりました。

ラウンジ妻・プラスワン～みんなでライブハウスのようにセッティングしました。

根室駅ホーム～SL根室号記念のイベント。当然「A列車で行こう」を演奏。

根室駅待合室～某テレビ番組のやらせ企画で演奏

ロサ・ルゴサ船内～ピザ無し訪問の移動中リハを兼ねて演奏

巡視船てしお船内～海保のイベントで演奏、終了後カレーをごちそうになりました。

客船「飛鳥」～船シリーズの最後は豪華客船飛鳥のホール、根室寄港の際のイベントとして演奏、設備も素晴らしく楽しいライブでした。

航空自衛隊基地内体育館～体育館完成の御披露目イベントで演奏。

清隆寺庫裡～日本一遅い花見とEPJOをNHKの全国ニュースで紹介するとの企画。生本番は緊張です。

旧和田中学校～学校祭に招かれ演奏、ニムオロ・ネイナでは生徒たちも参加

川北中学校～やはり学校祭で演奏、カムイ・チエップJOのメンバーも参加

霧多布湿原センター～なかなか雰囲気の良いライブでした。

NHK釧路放送局第1スタジオ～「金曜音楽館」収録のため約5時間拘束

JRタワーホテル札幌～メンバーの結婚式36Fのスカイバンケットルームで演奏

サハリン州ユジノサハリンスク市「将校会館」～文化会館以外で最大のホール、御客様も多くメンバーもビビった。

色丹島「インベリアル」～色丹穴洞地区にあるレストラン、手違いでメンバーが軟禁される事態に。

アラスカ州シトカ高校体育館～恐ろしく立派な体育館で高校のバンドやアーミーバンドと共演。

これからもフットワークを軽くし、様々な場所で演奏していきたいと思っていますので、是非、声をかけてください。お客様がいる限り演奏いたします。

「祝30周年、永くやっていると…」

EPJO 野田 敏

30年になるそうだ。大変である。我々のような、いい加減な人間がやっていることが30年も続いてしまうとは、由々しき事態と言わねばならない。10年ひと昔という言葉があるが、三昔である。(そういう風に言うのかな?)あまりの永さに、発足当時のことはもう忘却の彼方であり、一体どんな曲を演奏したのか?一緒にやったメンバーでさえもよく覚えていない。今回、当時の録音テープと写真で、ようやく確認出来たほどである。

最近、何人かの人から「良く続いているね、その秘訣は?」と聞かれたが、こちらが教えて欲しいくらいである。しいて挙げれば、ルールが無いという事か?また、いい加減と思う方が多いだろうが本当である。規約や会則はない。(色々、お役所がらみの関係で建前上つくることはあるが…)。

大人のバンドである。全て自己責任。(この辺がこいいな)参加資格も「音楽が好き、ジャズが好き、楽器が好き」このどれかに当てはまればOK。こんなにルーズでいいのかと自問自答したくなるほどである。当然、決まった会費も無い。やる気さえあれば金など要らない。素晴らしい心意気である。まあ楽器と飲み代は自分持ちというのが暗黙のルールか。しかし、ギャラは大歓迎。楽譜の購入費用や練習場の使用料はここから出す。いつも、マネージャーは残高を気にしているが、30年間もこんな調子だから、みんな何とかなるだろうと思っている。

練習は週一回。これだけは決めている。練習しなければ、どんどん下手くそになり、誰からも相手にされないバンドになることを良く知っているからだ。自分たちを知っているのである。本当は、毎日少しでも音を出すことが大切なのだが、何しろTp・Tb・Sax、そしてリズム隊、どれもやかましい。嫌いな人にとっては騒音以外の何物でもない。自宅で吹いたり叩いたりしたら都会では命を取られるだろう。

EPJOの場合、大別すると、レギュラーコンサートや、最近行っている緑町の恋問でのライブなど自主的な企画のコンサートと、イベントや行事のアウトラクション等、主催者から依頼されての演奏とに分かれる。誤解を恐れずに言うと、自主企画のコンサートは自由である。選曲も構成も基本的には好きなようにやる。その代わり僕も自分持ちである。赤字が出れば皆で負担しなければならない。至極当然のことである。一方、依頼されてのステージになると、少し気をを使う。選曲にしてもお客様がどんな層なのか?余興だとお酒が入った場所なのか?さらに、意外と注意しなければならないのは野外かどうかという点である。

かに祭りやサンマ祭り、明治公園でのハッピークリスマス等、意外と野外での演奏が多いのだが、これがヤバイのである。一見管楽器は音も大きく軍楽隊のイメージ等、野外での演奏が得意そうに思われているが、そんなことはない。風で譜面が飛ぶ、マイクスタンドが倒れる、コードが抜けてモニターの音が聞こえなくなる等々。最近の極めつけは、雪が突然降り出し譜面台に積り楽譜が見えなくなったことがあった。こんな状態になると、当然演奏にも影響を及ぼす。フレーズを落としたり、入り所を間違えたり、いわゆる「負の連鎖」が始まる。こうなるとヤケクソである。お客様には申し訳ないが、たまたま居合わせた不幸を恨んでいただきたい。こちらも必死なのである。また、もう一つ大きなアクシデントが「停電」である。これは悲しい。電気楽器はもちろんアウト、PAも鳴らないから、管楽器の生音だけが空しく響く。これまで一度だけ経験いたしました。

また、イベントなどはステージを楽しみに来るお客様もいるが、そうではないお客様だって多い。EPJOの演奏などどうでもよく、ひたすらカニを食べる人、ステージに背中を向け無料のサンマに夢中になる旅人、訳は知らないが泣きながら走り回る子ども、仲間内で盛り上がり、さっきの若手演歌歌手の時はステージに干切れるばかりに手を振っていたくせに、今はこちらの音に負けないボリュームで「ガハハ」と笑いあうオバサマたち。

これらの情景は、実にステージの上から見える。気にしないよう努めるが、一回気になると、もうためである。そうしている内に自分の入る場所を見失うのである。野外の演奏は実に恐ろしい。

でも、そんな中声をかけてくれる人がいる。演奏を終えステージから降り、メンバー各自の言い訳が始まっていると、どこからか近づいてきて「良かったよ!今度はいつやるの!」練習大変でしょう!初めて聞いたけどいいね」など。ちょっと微妙なコメントなのが「いやー思ったより上手だった」。でも、嬉しい一言である。この言葉があるから30年続けているといってもいいくらいだ。

演奏技術なら、もちろんプロに及ぶ訳もない。アマチュアバンドだって、大学のバンドなどプロ顔負けの演奏をする。でも、きっと生の演奏には、言い知れない良さがあるのだと思っている。我々も小学生や中学生の演奏を聞いて感激することがあるように。きっと、お客様も我々の演奏を聴いて、ちょっとだけでも感激する部分があるのだと思う。だから、こうしてわざわざ足を運んでくれるのだろう。

さて、今夜のステージ、30年間の集大成でもあるが、これからも続くであろうE・P・J・O。肩肘はらずリラックスして演奏しよう。お客様もどうか今のE・P・J・Oのサウンドを楽しんでいただきたい。これまでの拍手に感謝。そして、これからもよろしく!